

ISHIHARADAKITA-SITE

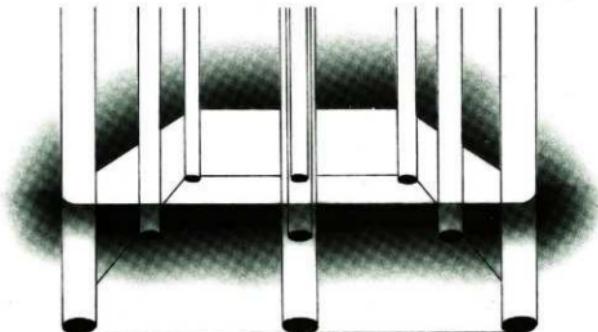
石原田北遺跡

長坂ショッピングセンター(仮称)建設にともなう埋蔵文化財発掘調査

1999.3

石原田北遺跡調査団

長坂町教育委員会



山梨県長坂町

石原田北遺跡

長坂ショッピングセンター(仮称)建設にともなう埋蔵文化財発掘調査

1999.3

石原田北遺跡調査団
長坂町教育委員会

序

長坂町はハケ岳南麓のほぼ中央に位置し、緩やかな南向きの斜面に広がる町です。ここには、古くははるか数万年前からの遺跡が200ヶ所以上発見され、私たちの遠い先人たちの確かな歩みを現在に伝えております。

このたび、長坂町大八田地内に有限会社エヌアイシーによるショッピングセンター建設にともない、周知の埋蔵文化財包蔵地である石原田北遺跡の発掘調査を実施しました。その結果、縄文時代前期の遺物、平安時代の堅穴住居址、中世の堅穴遺構など多様な考古学成果を得ました。これらの遺物や遺構は、隣接する柳坪遺跡や小屋敷遺跡さらに小和田館跡などの縄文時代と平安時代・中世からなる遺跡群とのつながりを考えていく上でも有意義な資料になると思われます。本書が広く、教育や研究の場で活用されることを望みます。

最後になりましたが、調査にあたりご指導、ご協力をいただいた関係機関、地元の皆様、そして埋蔵文化財調査への多大なご理解を賜りました有限会社エヌアイシーの皆様には深く感謝申し上げます。

1999年3月

石原田北遺跡調査団

団長 小松清寿

例　　言

- 1 本書は、山梨県北巨摩郡長坂町大八田字石原田に所在する石原田北遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、有限会社エヌアイシーの店舗建設工事にともない実施した。
- 3 発掘調査は有限会社エヌアイシーと長坂町教育委員会とにより、石原田北遺跡調査団を組織して行われた。

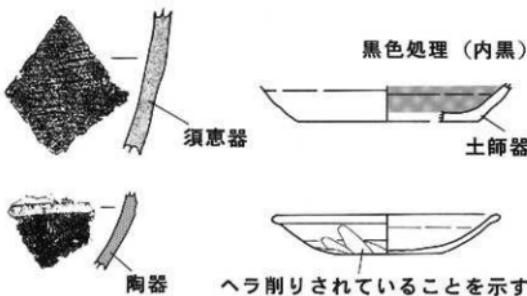
調査団組織

團　　長 小松 清寿（長坂町教育委員会教育長）
副 団 長 植松 忠（長坂町教育委員会教育課長）
副 団 長 小尾 康仁（有限会社エヌアイシー代表取締役）
事 務 局 長 與石 君夫（長坂町教育委員会教育係長）
事 務 局 員 白倉はるみ（長坂町教育委員会職員）
主任調査員 小宮山 隆（長坂町教育委員会学芸員）

- 4 本書の編集ならびに執筆は小宮山隆が行った。
- 5 遺物実測・図面作成・トレース・図面整理等に関わる業務は、吉田光雄（調査補助員）、石川昭江、井出仁美、小林広美、橋本はるみ、日向登茂子、山本理奈（整理作業員）が行った。
- 6 出土品および図面・写真は長坂町教育委員会が保管している。
- 7 発掘調査から本書作成までの間、次の諸氏からご助言、ご配慮を賜った。記して感謝申し上げたい。

（順不同、敬称略）

小野正文・保坂康夫・出月洋文・中山誠二・森原明廣（以上、山梨県教育庁学術文化財課）、山下孝司（韮崎市教育委員会）、平野修（山梨文化財研究所）、山下大輔（信州大学教育学部）、渡辺泰彦（大泉村教育委員会）、北巨摩市町村文化財担当者会



石原田北遺跡

Contents

もくじ

本文

序

例言

第1章 調査の経過	10
1 調査の経緯	10
2 調査の概要	10
3 調査組織	10
第2章 遺跡をとりまく環境	11
1 自然環境	11
2 長坂町内の遺跡分布	12
第3章 検出された遺構と遺物	16
1 坪穴住居址	16
2 坪穴建物址	16
3 挖立柱建物址	17
4 遺物	17
第4章 調査のまとめ	26

挿図・表

写真図版

図1 長坂町の遺跡分布	8	図版1 石原田北遺跡全景	28
図2 基本層序	11	図版2 調査風景	28
図3 石原田北遺跡の位置と周辺遺跡分布図	13	図版3 1号住居址	28
図4 石原田北遺跡調査区位置図	14	図版4 1号住居址	29
図5 石原田北遺跡全体図	15	図版5 1号住居カマド	29
図6 1号住居址実測図	20	図版6 1号住出土土器	29
図7 2号堅穴建物址実測図	21	図版7 2号堅穴建物址	30
図8 3号堅穴建物址実測図	21	図版8 3号堅穴建物址	30
図9 4号堅穴建物址実測図	22	図版9 4号堅穴建物址	31
図10 5号堅穴建物址実測図	22	図版10 5号堅穴建物址	31
図11 一括出土遺物[1/3]	23		
図12 1号住居址出土遺物[1/3]	23		
図13 1号住居址出土遺物[2/3]	24		
図14 4号堅穴建物址出土遺物[1/3]	25		
図15 B-2出土遺物[1/3]	25		
図16 C-2出土遺物[1/3]	25		
図17 一括出土遺物[1/3]	25		
図18 一括出土石器	26		

表1 長坂町の遺跡分布一覧	9
表2 遺構外遺物観察表	17
表3 1号住居址遺物観察表	18
表4 4号住居址遺物観察表	18
表5 B-2遺物観察表	18
表6 C-2遺物観察表	19
表7 遺構外遺物観察表	19
表8 遺構外石器観察表	19
表9 小和田遺跡D地区堅穴建物主要属性表	27



図1 長坂町の遺跡分布図

表1 長坂町の遺跡分布一覧

	(前=開文時代 弥=奈生時代 古=古墳時代 平=平安時代 中=中世)
001 耳塚 中	070 石原田南遺跡 縄 平 中
002 法性寺前遺跡 縄 中	071 堀原遺跡 縄 平
003 信玄宮遺跡 縄	072 諏中久保遺跡 縄 平
004 小糸間古戰場跡	073 久保遺跡 縄
005 桜畠遺跡 近	074 房屋敷遺跡 縄
006 小糸遺跡 近	075 池の平遺跡 縄
007 菩間遺跡 縄	076 東所遺跡 3 平
008 桜畠南遺跡 縄	077 東所遺跡 2 平
009 佐屋敷東遺跡 縄	078 東所遺跡 4 縄 平
010 佐屋敷北遺跡 縄	079 東所遺跡 1 縄 平
011 佐屋敷遺跡 縄	080 和手山東遺跡 中
012 牛久保遺跡 弥 弐	081 小尾平遺跡 旧石 縄
013 牛久保南遺跡 縄	082 尾の原遺跡 縄
014 芝入遺跡 縄 中	083 西ノ東遺跡 平
015 宇千平遺跡 縄 細 中	084 西所遺跡 縄
016 東下尾敷遺跡 縄	085 西ノ東遺跡 縄 平
017 西下尾敷遺跡 縄	086 手半遺跡 縄 平
018 新田森遺跡 縄	087 肥名遺跡 縄
019 西下尾敷南遺跡 縄	088 城山上北遺跡 縄 平
020 横手遺跡 縄 中	089 城山上遺跡 縄
021 神之原遺跡 縄	090 中丸城跡 中
022 屋敷所遺跡 縄 中	091 尾久保遺跡 縄 平
023 内城遺跡 中	092 清音白樺美術館南遺跡 縄
024 十郎井遺跡 縄	093 細久保遺跡 縄
025 阿原遺跡 平	094 後平遺跡 縄 平
026 中尾根遺跡 縄	095 猪伏北遺跡 縄 平
027 手白尾遺跡 縄	096 猪伏遺跡 縄 平
028 夫婦石遺跡 縄	097 大平遺跡 縄 平
029 横山1遺跡 縄	098 下久保遺跡 縄
030 横山2遺跡 縄	099 久保遺跡 縄
031 横山平南遺跡 縄 平	100 高松遺跡 縄
032 鮎原北遺跡 縄 平	101 上所遺跡 細 平
033 上フノリ平北遺跡 縄	102 洗谷春場遺跡 細 古 平
034 上フノリ平遺跡 縄	103 東村A遺跡 細 平
035 上フノリ平西北遺跡 縄	104 東村B遺跡 古 平
036 下フノリ平北遺跡 細	105 中村遺跡 古 平
037 葛所遺跡 縄 弐	106 猪田遺跡 平
038 下フノリ平遺跡 細 中	107 西村遺跡 古 平
039 下フノリ平南遺跡 平	108 中反遺跡 細 平
040 別当遺跡 縄	109 中丸・塙堀
041 別当西遺跡 縄	110 長坂氏屋敷跡 中
042 別当十三塚	111 白山神社前遺跡 平
043 新居北遺跡 中	112 上ノ屋敷遺跡 縄 平
044 深草館跡	113 大々神十三塚 中
045 小和田遺跡 細 平	114 大々神A遺跡 平
046 南新居屋敷跡	115 大々神B遺跡 古 平
047 南新居遺跡 平	116 治郎田遺跡 古 平
048 南新居西遺跡 平	117 頭無A遺跡 平
049 小和田跡	118 横木遺跡 細 古
050 米山遺跡 旧石 細	119 塚川・柳坪遺跡 縄
051 米山東遺跡 半	120 頭無遺跡(二本木遺跡) 縄 古
052 塚原遺跡 平	121 新田遺跡 縄
053 産田遺跡 細 古 平	122 塚之越遺跡 中
054 弥右衛門塚 1	123 原町北遺跡 平 中
055 弥右衛門塚 2	124 原町遺跡 平
056 滝田北遺跡 平	125 上久保北遺跡 縄 平
057 滝田遺跡 平	126 塚川の土壘 中
058 東原の土壘	127 下村遺跡
059 東原遺跡 中 平	128 塚川十三塚群
060 柳新居遺跡 細 古 平	129 富久保遺跡 細
061 原田遺跡 細 平	130 下村南遺跡 細 平
062 柳坪A遺跡 細 古 平	131 泥里西遺跡 細 平
063 柳坪B遺跡 細 古 平	132 墓見遺跡 細 平
064 小屋敷遺跡 細 平	133 鶴馬場遺跡 細 平
065 久保地遺跡 細	134 寺前遺跡 細 平 中
066 成岡遺跡 細 弐 平	135 上久保遺跡 細
067 成岡新田遺跡 細 平	136 反田遺跡 細 平 中
068 曲田遺跡 平	137 三井氏屋敷跡 中
069 ● 石原田北遺跡 細 平	138 北村遺跡 弥 古

第1章 調査の経過

1 調査の経緯

1996年4月に有限会社エヌアイシー（以下、N I Cとする）から、北巨摩郡長坂町大八田地内の店舗建設にあたっての埋蔵文化財の取り扱いについて照会があった。町教育委員会では、約9,000m²におよぶ建設予定地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である石原田北遺跡の範囲内であることを確認した。同年4月30日付けでN I Cから文化庁長官あてに埋蔵文化財発掘の届出があり、町教育委員会が試掘確認調査を実施した結果、開発予定地東側の約1,500m²で遺構と遺物包含層が確認され工事計画上遺跡の保存が困難なため、N I Cおよび県教育委員会と協議した結果、町教育委員会とN I Cとで石原田北遺跡調査団（以下、調査団とする）を結成して、文化財保護法に基づき本調査を実施することになった。調査団は団長を町教育長として、事務局を町教育委員会におくこととした。1996年9月2日付けで文化庁長官あてに埋蔵文化財発掘調査の通知を行い、調査体制の整備をはかるとともに、同年9月26日に委託者N I C、受託者調査団長、立会人長坂町長として、石原田北遺跡発掘調査委託についての委託契約を締結した。調査は1996年10月から実施し、1998年10月に完了した。出土遺物や図面の整理作業もこれに並行して行った。1998年10月22日付けで県教育長あてに埋蔵文化財の発掘調査終了の報告を行った。

2 調査の概要

石原田北遺跡は今回の調査区より南側の畑に遺物分布の中心があり、今日でも多量の縄文土器片を探集することができる。一方、本調査区の位置は当初において遺物の表面採集がほとんどできない地点だったため、遺構の密度も低調であることを予測していた。しかし、調査の結果、平安時代の住居址1件、中世と思われる堅穴建物址3基、掘立柱建物址3基以上などの遺構が確認された。また、縄文時代前期後葉の土器片、縄文時代の石器類、平安時代の土師器片など多様な遺物が検出された。

3 調査組織

石原田北遺跡調査団

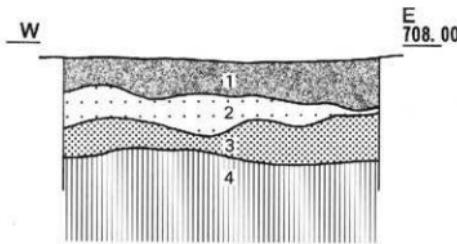
団 長	小松 清寿（長坂町教育委員会教育長）
副 団 長	植松 忠（長坂町教育委員会教育課長）
副 団 長	小尾 康仁（有限会社エヌアイシー代表取締役）
事 務 局 長	與石 君夫（長坂町教育委員会教育係長）
事 務 局 員	白倉はるみ（長坂町教育委員会副主幹）
主任調査員	小宮山 隆（長坂町教育委員会学芸員）

第2章 遺跡をとりまく環境

1 自然環境

石原田北遺跡は北緯35度49分45秒、東経138度23分40秒、標高707m付近に位置する。現在の中央自動車道長坂インターチェンジ付近にかつてあった小高い尾根があり、これが南に向かって次第に低位になる尾根上の南東緩斜面に遺跡は立地する。遺跡の立地するこれらの尾根は、第四紀火山の崩壊としては日本列島で最大規模といわれる蘿崎岩屑流によって形成された八ヶ岳南麓緩斜面を、塩川の支流である鳩川や泉川といった中小河川にわずかに浸食されてできたもので、本遺跡が立地する標高700m付近を境にして、より下流域では浸食力が増大し河岸段丘が発達する。つまり本遺跡は、起伏の小さい八ヶ岳南麓緩斜面が、次第に河川浸食による段丘の発達をはじめる変換点に位置する。

遺跡の立地する尾根上は主に高原野菜を生産する畑や水田に、低位面はほぼ全面で水田化されている。遺跡周辺の気候は典型的な内陸型気候であり、気温の日较差・年较差が大きく、年間降水量はおよそ1,100mmと少ない。高海拔の割に冬季の積雪量は少ないが、多い年では年に数回、30~40cmの積雪量が観測される。



- 1 明黄褐色土層(1) 表土
- 2 明黄褐色土層(2) 包含層
- 3 明黄褐色土層(3) 包含層
- 4 明黄褐色土層(4) ローム



図2 基本層序

2 長坂町内の遺跡分布

石原田北遺跡の周囲には高密度に遺跡が分布し、発掘調査された遺跡も数多い。すぐ北側に隣接する柳坪遺跡では縄文時代中期後半を中心とした集落遺跡が確認された¹⁾。柳新居遺跡では、縄文時代中期前半の住居址が数件確認された。県営圃場整備事業にともない調査された別当西遺跡²⁾や大八田原田遺跡³⁾では、縄文時代後期の集落跡が確認された。柳坪遺跡では弥生時代中期の住居址も確認された。境原遺跡でも弥生後期の住居址が確認されている。古墳時代では柳坪遺跡で前期の住居址がある。平安時代の遺跡調査例は多数あり、南新居西遺跡⁴⁾、小和田館跡⁵⁾、大八田原田遺跡、柳坪遺跡、柳坪南遺跡、境原遺跡が挙げられる。中世では、国人領主層の居館とそれをとりまく集落が確認された小利川遺跡や、堀と土塁が良好に遺存する県指定文化財の深草館がある。

註

¹⁾山梨県教育委員会1975『山梨県中央地理文化財包蔵地発掘調査報告書一北巨摩郡長坂・明野・並崎地内』

山梨県教育委員会1986『柳坪遺跡』

²⁾長坂町教育委員会1987『深岸遺跡 別当十三塚道路 別当遺跡(第2次) 稲屋敷遺跡』

長坂町教育委員会1997『別当西遺跡』

³⁾長坂町教育委員会1989『大八田原田遺跡』

⁴⁾長坂町教育委員会1991『南新居西遺跡』

⁵⁾長坂町教育委員会1985『小和田館跡』

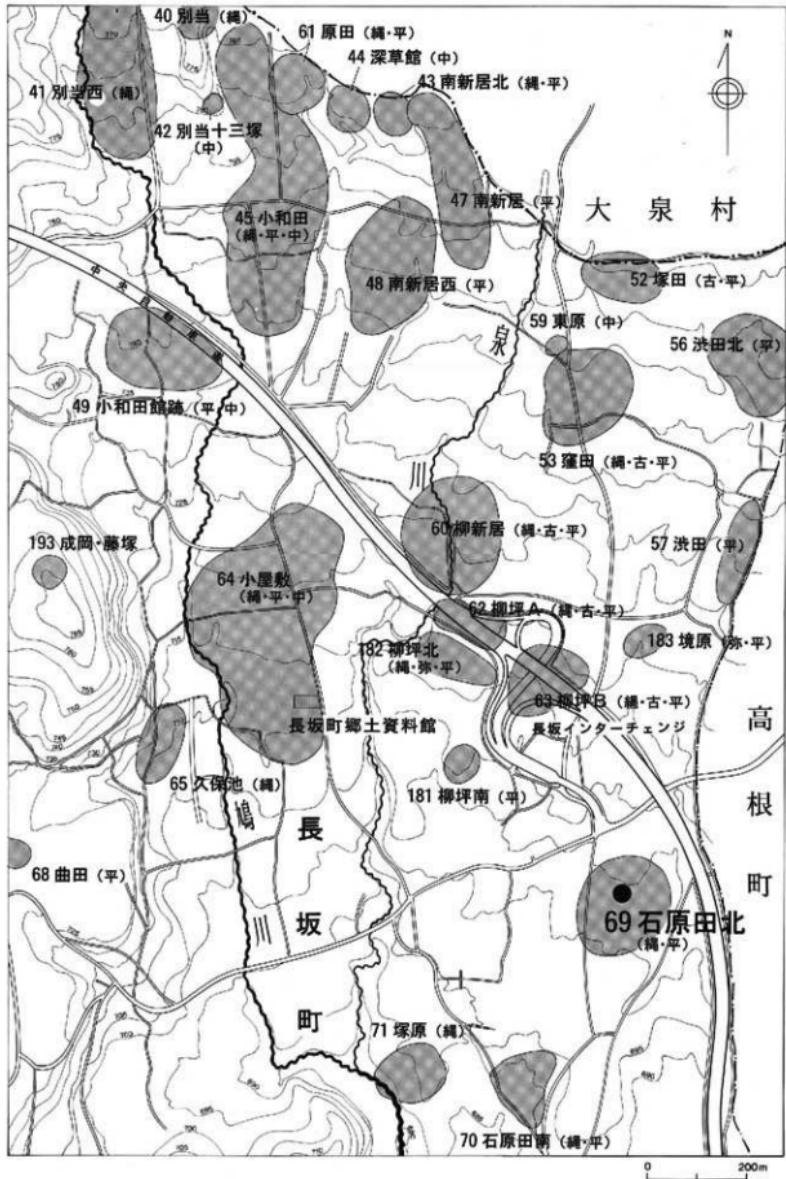


図3 石原田北遺跡の位置と周辺遺跡分布図



図4 石原田北遺跡調査区位置図

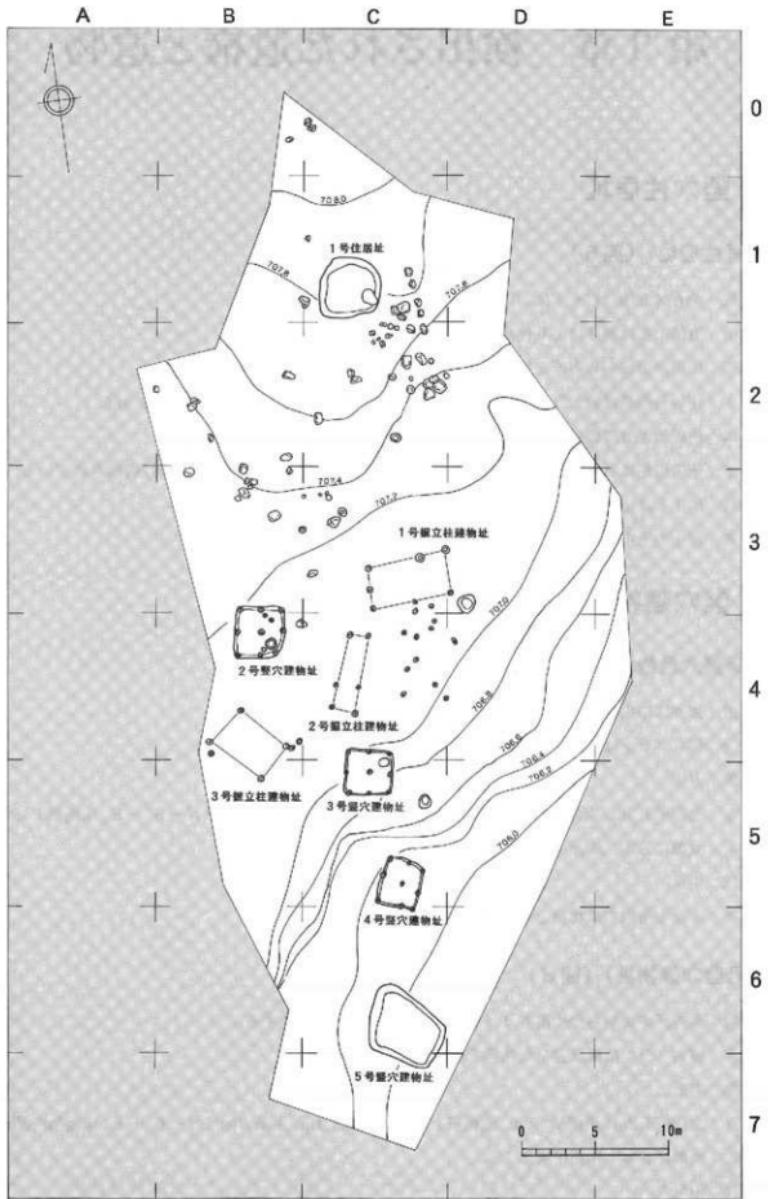


図5 石原田北遺跡全体図

第3章 検出された遺構と遺物

1 壺穴住居址

〈1号住居址〉(図6)

位 置：調査区北端（C-1区）に位置する。

検出状況：遺構上部は耕作により擾乱を受けている。

平面形態：床面の形状から方形と推測される。

大きさ：住居長軸長は約4.2m、短軸長は4.0m。長軸方向はE-15°-S。床面積9.9m²。

周 講：住居四半分で確認される。

カマド：住居東側に石組みのカマドがあり、焼土が堆積する。カマドは擾乱を受け破壊されている。

時代：出土した土師器から10世紀中～後葉段階と思われる。

備 考：覆土の上中層には大型の礫が混入する。

2 壺穴建物址 (1号は欠番)

〈2号壺穴建物址〉(図7)

位 置：調査区中央西寄り（B-3、B-4区）に位置する。

検出状況：壺穴プランはほぼ完全な状態で検出。

平面形態：方形。

大きさ：北側壁3.2m、東側壁3.1m、南側壁3.2m、西側壁3.4m。主軸方向はN-5°-E。床面積9.18m²。

柱 穴：壁際に8本、床面中央に1本。

時 代：中世。

備 考：床面の南東で炭化物と焼土確認。

〈3号壺穴建物址〉(図8)

位 置：調査区中央からやや南寄り（C-4、C-5区）に位置する。

検出状況：壺穴プランはほぼ完全な状態で検出。

平面形態：方形。

大きさ：北側壁3.2m、東側壁2.9m、南側壁3.1m、西側壁3.1m。主軸方向はN-6°-E。床面積8.86m²。

柱 穴：壁際に8本、床面中央に1本。

時 代：中世。

備 考：床面の北東に浅い掘り込みがあり焼土が確認された。床面南東に炭化物が広がる。

〈4号竪穴建物址〉(図9)

位置：調査区南寄り（C-5区）に位置する。

検出状況：竪穴プランはほぼ完全な状態で検出。

平面形態：方形。

大きさ：北側壁（3.0m）、東側壁（3.0m）、南側壁2.8m、西側壁3.0m。主軸方向はN-26°-W。床面積7.4m²（推定）。

柱穴：壁際に8本、床面中央に1本。

時代：中世。

備考：床面の南東に浅い掘り込みがあり、その北側に炭化物が確認された。

〈5号竪穴建物址〉(図10)

位置：調査区南端（C-6、C-7区）に位置する。

検出状況：遺構上部は耕作により搅乱を受けている。

平面形態：台形。

大きさ：長軸長5.2m、短軸長4.3m。

柱穴：なし。

時代：不明。

3 挖立柱建物址 (図5全体図)

調査区中央にピット群があり、このうち掘立柱建物址と推測される柱穴配列はC-3区（1号掘立柱建物址）、C-4区（2号掘立柱建物址）、B-4およびB-5区（3号掘立柱建物址）の3基である。

4 遺物

表2 遺構外遺物観察表 (図11)

番号	種類	器形	大きさ(cm)		胎土	色調(内面) 色調(外面)	調	蓋	釉面	特徴	保存率
			器高	口径・底径							
1	縄文土器	鉢	-	-	石英・長石・雲母	赤・褐・色	(外)浮線文				小片
2	縄文土器	深鉢	-	-	石英・長石・雲母	赤・褐・色	(外)浮線文、L R				小片
3	縄文土器	深鉢	-	-	石英・長石・雲母	黄・褐・色	(外)陸帯				小片
4	縄文土器	深鉢	-	-	石英・長石・雲母	赤・褐・色	(外)沈線				小片
5	縄文土器	深鉢	-	-	石英・長石・雲母	赤・褐・色	(外)浮線文				小片
6	縄文土器	深鉢	-	-	石英・長石・雲母	緑・赤・褐色	(外)沈線、L R				小片
7	縄文土器	深鉢	-	-	石英・長石・雲母	緑・赤・褐色	(外)沈線、L R				小片
8	縄文土器	深鉢	-	-	石英・長石・雲母	茶・褐・色	(外)L R				小片
9	縄文土器	深鉢	-	-	石英・長石・雲母	茶・褐・色	(外)沈線、R L				小片
10	縄文土器	深鉢	-	-	石英・長石・雲母	緑・茶・褐色					小片

表3 1号住居址遺物観察表(図12・13)

番号	種類	器形	大きさ(cm) 高・口径・底径	胎土	色調(内面) (外面)	調	整	輪厚	特徴	強度
1	土師器	甌?	- (12.0) -	石英・長石・雲母	茶褐色	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ				小片
2	土師器	甌	- - -	石英・長石・雲母	茶褐色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目				小片
3	土師器	甌	(15.5) -	石英・長石・雲母	赤褐色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目				小片
4	土師器	甌	- - -	石英・長石・雲母	黄褐色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目				小片
5	土師器	甌	- (25.0) -	石英・長石・雲母	黄褐色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目				小片
6	土師器	甌	- - -	石英・長石・雲母	黄褐色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目				小片
7	土師器	甌	- - -	石英・長石・雲母	黄褐色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目				小片
8	土師器	甌	- - -	石英・長石・雲母	赤褐色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目				小片
9	土師器	甌?	- - -	石英・長石・雲母	黄褐色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目				小片
10	土師器	甌	- - -	石英・長石・雲母	茶褐色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目				小片
11	土師器	甌	- - -	石英・長石・雲母	赤褐色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目				小片
12	土師器	甌	- - -	石英・長石・雲母	黄褐色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目				小片
13	土師器	甌	- - -	石英・長石・雲母	暗赤褐色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目				小片
14	土師器	甌	- - -	石英・長石・雲母	茶褐色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目				小片
15	土師器	甌	- - -	石英・長石・雲母	赤褐色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目				小片
16	土師器	甌	- - -	石英・長石・雲母	赤褐色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目				小片
17	土師器	甌	- - -	石英・長石・雲母	黄褐色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目				小片
18	陶器	?	- - -	白色粘土	灰白色	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ		灰		小片
19	土師器	甌	2.2 (13.0) 5.5 リア	石英・長石・スコリア	赤褐色	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ、ヘラ削り (底)回転糸切り			60%	
20	土師器	甌?	- - - 4.0	石英・長石・雲母	赤褐色	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ、ヘラ削り				小片
21	土師器	甌?	- - - (10.0)	石英・長石・雲母・角閃石	黄褐色	(外)ロクロナデ (底)四輪あせり		内墨		小片
22	陶器	?	- - -	灰色粘土	灰色	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ		鉛		小片
23	土師器	甌	- - -	石英・長石・雲母	茶褐色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目				小片
24	土師器	?	- - - (8.0)	石英・長石・雲母	黄褐色	(外)ヘラ削り (底)ヘラ削り				小片
25	土師器	甌	- - -	石英・長石・雲母	茶褐色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目				小片
26	土師器	甌	- - -	石英・長石・雲母	暗茶褐色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目				小片
27	土師器	甌	- - -	石英・長石・雲母	茶褐色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目				小片
28	土師器	甌	- - -	石英・長石・雲母	茶褐色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目				小片
29	土師器	甌	- - -	石英・長石・雲母	茶褐色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目				小片
30	土師器	甌	- - -	石英・長石・雲母	黑色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目				小片
31	土師器	甌	- - -	石英・長石・雲母	黑褐色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目				小片
32	土師器	甌	- - -	石英・長石・雲母	茶褐色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目				小片
33	土師器	甌	- - -	石英・長石・雲母	黄褐色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目				小片
34	土師器	甌	- - -	石英・長石・雲母	黄褐色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目				小片
35	土師器	?	- - -	石英・長石・雲母	茶褐色	(内)ロクロナデ (底)回転糸切り				小片

表4 4号堅穴建物址遺物観察表(図14)

1	土師器	?	- - -	石英・長石・雲母	黄褐色	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ		!		小片
2	土師器	?	- - -	石英・長石・雲母	赤褐色	(内)ロクロナデ (外)ロクロナデ				小片

表5 B-2遺物観察表(図15)

1	土師器	甌	- - -	石英・長石・雲母	培養褐色	(内)ヨコ刷毛目 (外)タテ刷毛目				小片
2	土師器	?	- - -	石英・長石・雲母・角閃石	黄褐色	(外)タテ刷毛目		内墨		小片

表6 C-2 遺物観察表(図16)

番号	種類	器形	大きさ(cm)		胎土	色調(内面) (外面)	調	整	種 類	特 徴	種 子半 小片
			高さ・口径・底径	横幅							
1	土師器	壺?	-	-	石英・長石・雲母	赤褐色	(内)ヨコ刷毛目	(外)タテ刷毛目			

表7 遺構外遺物観察表(図17)

1	須恵器	壺?	-	-	白石粒	灰白色	(内)ロクロナデ	(外)ロクロナデ			小片
2	須恵器	?	-	-	白石粒	灰白色	(内)ロクロナデ	(外)ロクロナデ、ヘラ削り			小片
3	須恵器	?	-	-	白石粒	灰白色	(内)ロクロナデ	(外)ロクロナデ、ヘラ削り			小片
4	須恵器	壺?	-	-	白石粒	灰白色	(内)ロクロナデ	(外)ロクロナデ			小片
5	須恵器	?	-	-	白石粒	灰白色	(内)ロクロナデ	(外)ロクロナデ			小片
6	須恵器	?	-	-	白石粒	灰白色	(内)ロクロナデ	(外)ロクロナデ			小片
7	須恵器	?	-	-	白石粒	灰白色	(内)ロクロナデ	(外)ロクロナデ			小片
8	須恵器	壺?	-	-	白石粒	灰黑色	(内)ロクロナデ	(外)ロクロナデ			小片
9	土師器	壺	-	(10.0)	砂粒子	黒褐色	(内)ロクロナデ	(外)ロクロナデ			内黒 小片
10	土師器	壺	-	(15.0)	スコリア	明赤褐色	(内)ロクロナデ	(外)ロクロナデ			小片
11	土師器	壺?	-	(13.0)	スコリア	赤褐色	(内)ロクロナデ	(外)ロクロナデ			小片
12	土師器	壺?	-	-	石英・長石・雲母	暗茶褐色	(内)ヨコ刷毛目	(外)タテ刷毛目			小片
13	土師器	壺?	-	-	石英・長石・雲母	茶褐色	(内)ヨコ刷毛目	(外)タテ刷毛目			小片
14	土師器	壺?	-	-	石英・長石・雲母	暗茶褐色	(内)ヨコ刷毛目	(外)タテ刷毛目			小片
15	土師器	壺?	-	-	石英・長石・雲母	赤褐色	(内)ヨコ刷毛目	(外)タテ刷毛目			小片
16	土師器	壺?	-	-	石英・長石・雲母	茶褐色	(内)ヨコ刷毛目	(外)タテ刷毛目			小片
17	土師器	?	-	-	石英・長石・雲母	黄褐色	(内)ロクロナデ	(外)ロクロナデ			小片
18	土師器	?	-	-	石英・長石・雲母	茶褐色	(内)ロクロナデ	(外)ロクロナデ			小片
19	土師器	?	-	-	石英・長石・雲母	明黄褐色	(外)ヨコ刷毛目				小片
20	土師器	壺?	-	-	石英・長石・雲母	茶褐色	(内)ヨコ刷毛目	(外)タテ刷毛目			小片
21	土師器	?	-	-	石英・長石・雲母	茶褐色	(内)ロクロナデ	(外)ロクロナデ			小片
22	土師器	?	-	-	石英・長石・雲母	黒褐色	(内)ロクロナデ	(外)ロクロナデ			小片
23	土師器	?	-	-	スコリア	明赤褐色	(外)ロクロナデ				小片
24	土師器	壺	-	-	石英・長石・雲母	暗茶褐色	(内)ロクロナデ	(外)ロクロナデ			暗文 小片
25	陶器	壺?	-	-	白色粒	暗茶褐色	(内)ロクロナデ	(外)ロクロナデ			陶文 小片
26	陶器	壺?	-	-	白色粒	暗茶褐色	(内)ロクロナデ	(外)ロクロナデ			陶文 小片
27	陶器	山皿	-	(11.0)	白色粒	黃褐色	(内)ロクロナデ	(外)ロクロナデ			陶文 小片

表8 遺構外出土石器(図18)

図番号	種類	大長	大幅	最大厚	重量	石材	残存率	備考
		(cm)	(cm)	(cm)	(g)			
1	打製石斧	10.2	5.3	2.7	165	ホルンフェルス	100%	抜型
2	石鎚	(1.7)	(1.55)	0.45	(0.8)	黒曜石	90%	有茎凹基

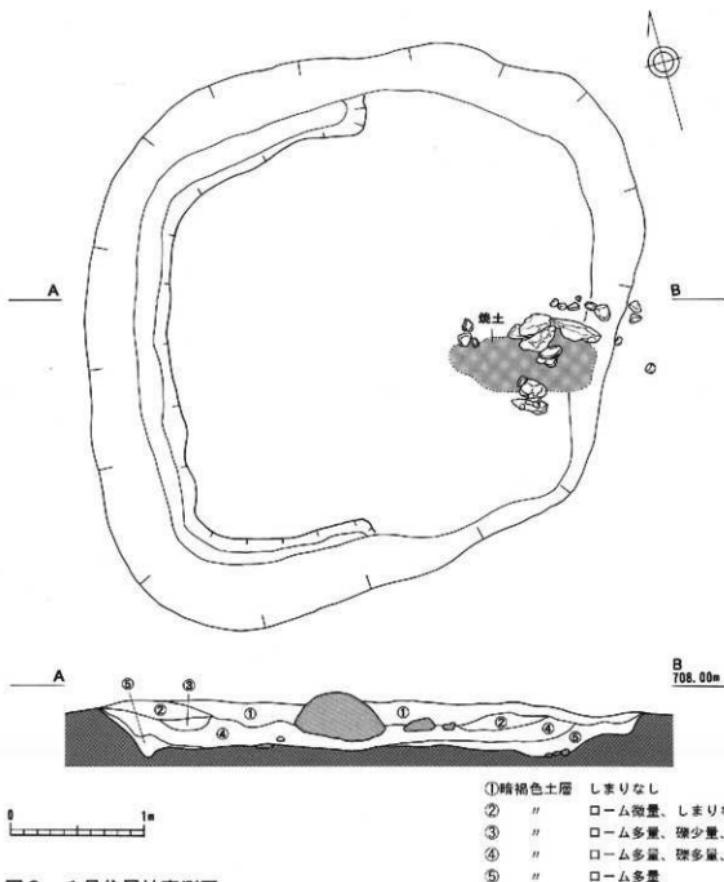
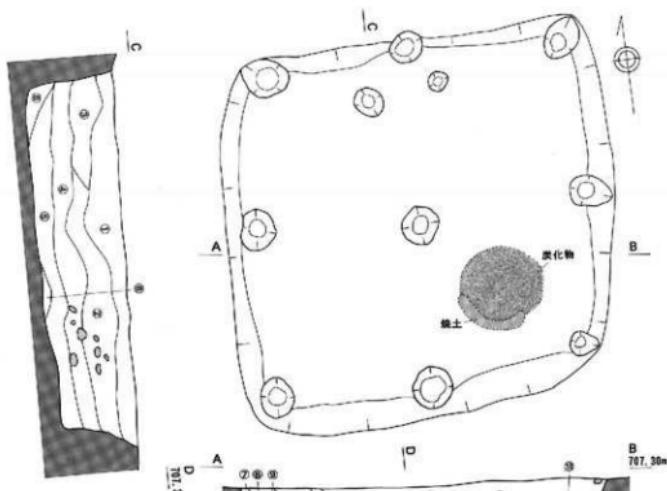
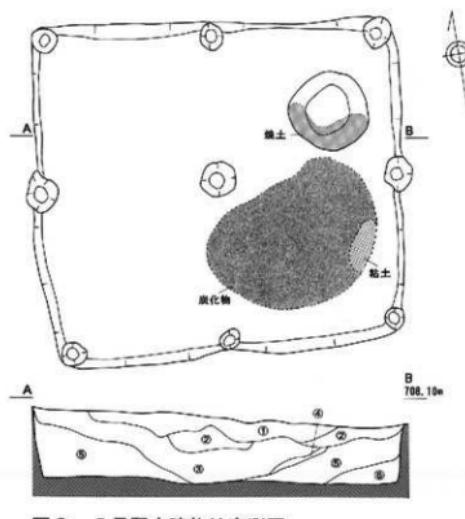


図6 1号住居址実測図



- ① 喀黃褐色土層 ローム多量、
ロームブロック多量、
砂ブロック少量、しまりなし
- ② 黒褐色土層 ローム少量、拳大礫、
砂ブロック少量
- ③ 喀黃褐色土層 ローム多量
- ④ 喀黃褐色土層 5mm位ローム多量、礫少量
- ⑤ 喀黃褐色土層 砂ブロック少量
- ⑥ 喀黃褐色土層 ⑤より粒子細かい
- ⑦ 黄褐色土層 ローム多量
- ⑧ 喀黑褐色土層
- ⑨ 黑褐色土層
- ⑩ 喀黃褐色土層 ロームブロック多量

図7 2号竪穴建物址実測図



- ① 喀褐色土層 ローム多量、しまりあり
しまりなし
- ② 喀黃褐色土層 ロームブロック多量、
しまりなし
- ③ 黄褐色土層 粘土少量、しまりあり
- ④ 喀褐色土層 ロームブロック多量、
喀褐色土混入、しまりなし
- ⑤ 喀黃褐色土層 ローム微量、しまりなし
- ⑥ 喀黃褐色土層 ローム少量、しまりなし
- ⑦ 喀黃褐色土層 ローム微量、しまりなし

図8 3号竪穴建物址実測図

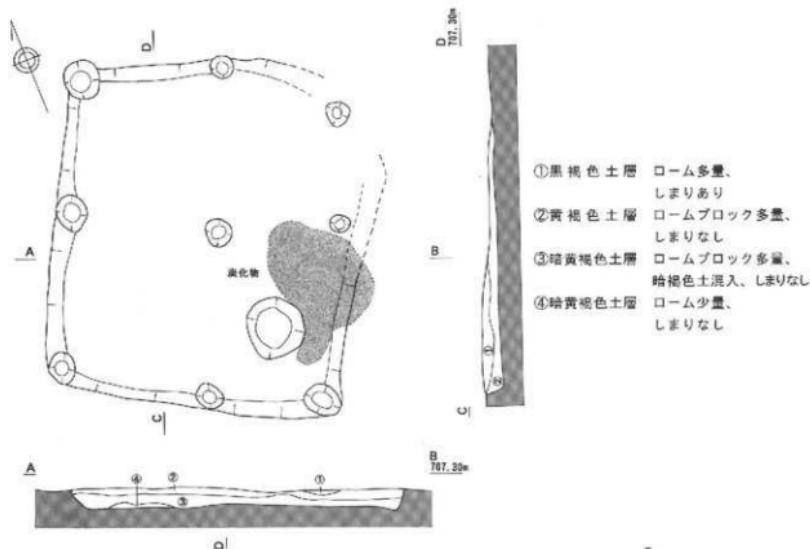


図9 4号竪穴建物址実測図

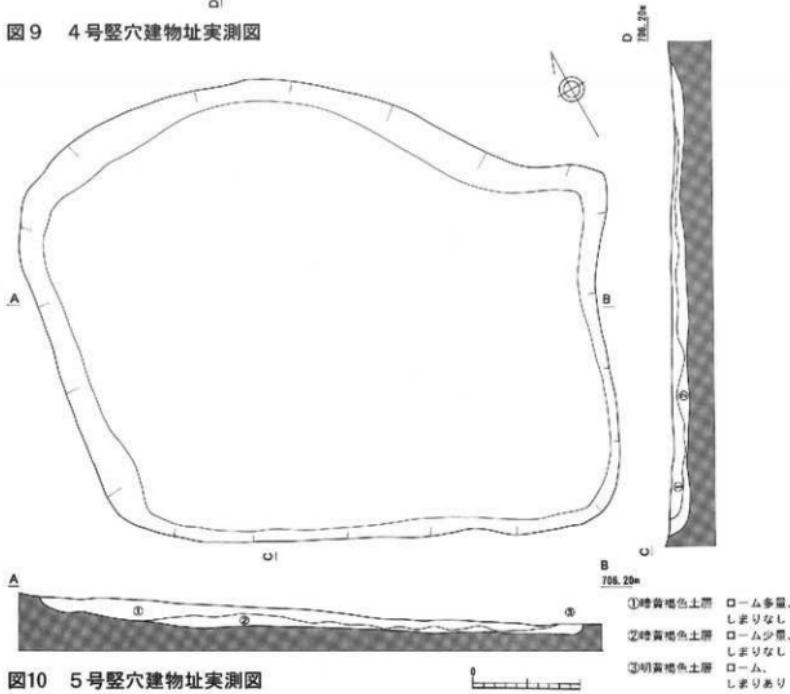


図10 5号竪穴建物址実測図

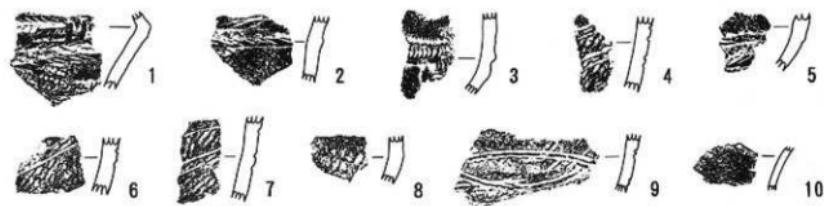
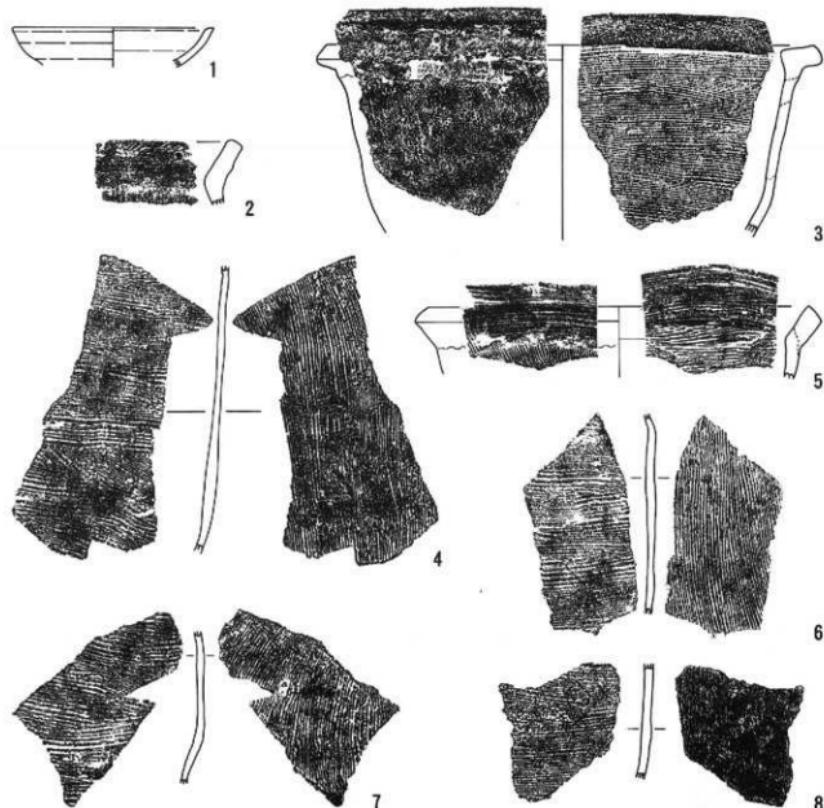
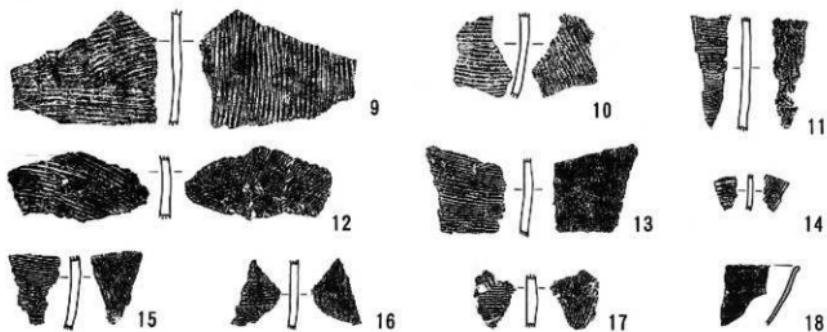


図11 造構外出土遺物 [1/3]



カマド

図12 1号住居址出土遺物(1) [1/3]



カマド

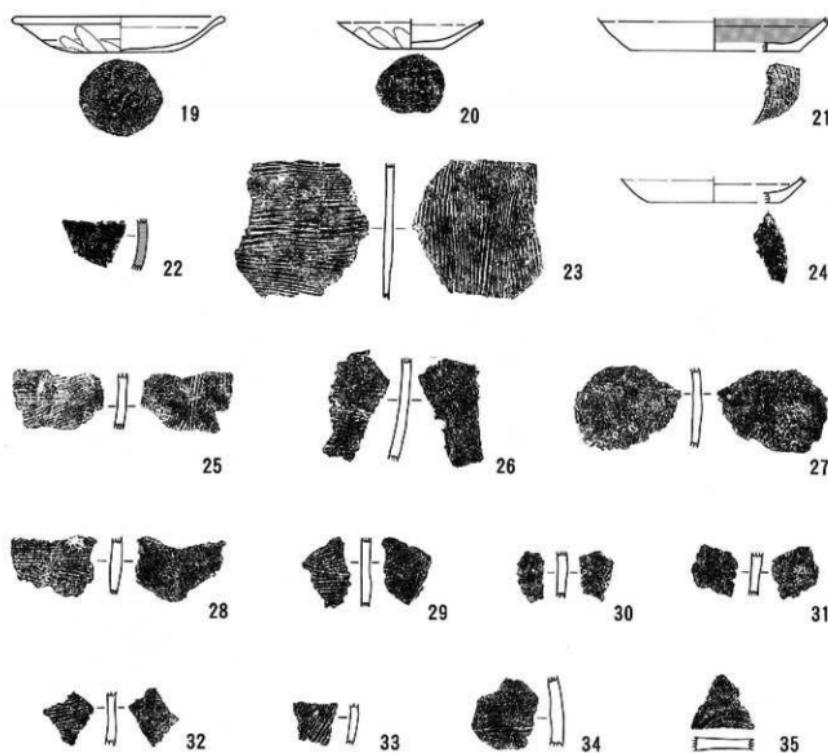


図13 1号住居址出土遺物(2) [1/3]



図14 4号竪穴建物址出土遺物 [1/3]



図15 B-2 出土遺物 [1/3]



図16 C-2 出土遺物 [1/3]

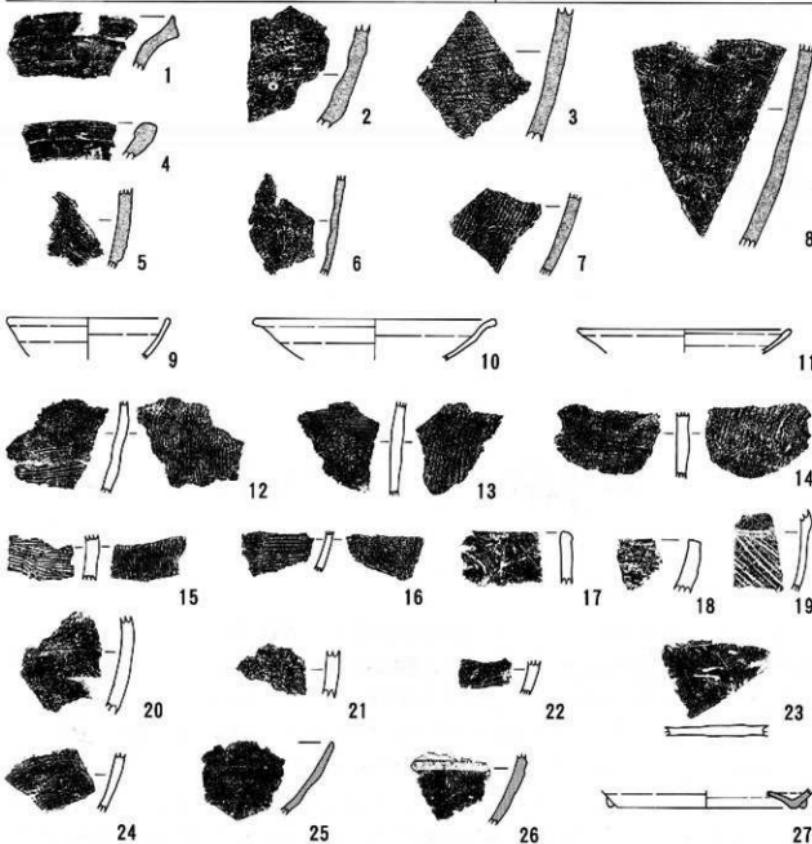


図17 遺構外出土遺物 [1/3]

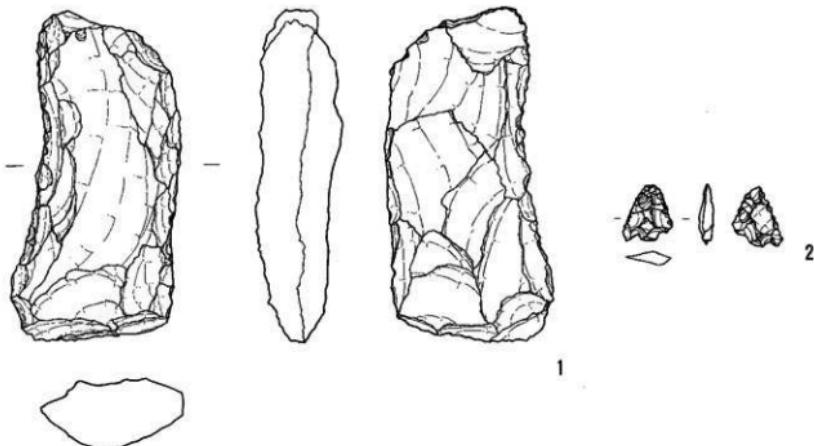


図18 遺構外出土石器

第4章 調査のまとめ

今回の石原田北遺跡の調査は、遺跡の北半を実施したに過ぎず、全体像を考察するには制約が大きい。1998年からは本調査範囲に南接する部分で、木店舗建設とは別に、ホームセンター建設に伴う埋蔵文化財調査が進行中であり、縄文時代前期から平安時代、中世にかけての遺構・遺物が多数出土している¹⁾。このことからしても、本遺跡で報告した平安時代と中世を中心とする遺構群にとどまらないことが想定される。

縄文時代に関しては、当初、中期後半の集落遺跡である北接する柳坪B遺跡²⁾との関わりが予測されたが、前期後半諸磯b式の土器片等がわずかに出土したのみであった。少なくとも柳坪B遺跡の中期後半の集落の範囲が、本調査区まで広がっているという状況は確認できなかった。前期後半については、さらに南側に広がる可能性が高い。

平安時代についても、同じく柳坪B遺跡における集落との関わりが予測されたものの、10世紀後半段階と思われる住居1件の確認にとどまった。

中世では堅穴建物が確認された。これは堅穴造構とも呼ばれるが、その用途や機能については住居・倉庫・避難小屋などの諸説がある。今回調査した堅穴建物からは土器等の遺物が出土せず、時代決定が困難であるが、近在では長坂町小和田遺跡群³⁾、大泉村金生遺跡⁴⁾などで同様の遺構の報告例がある。とくに小和田遺跡D地区からは31件というまとまった数の堅穴建物が検出され、中世の集落遺跡として注目されている。小和田遺跡の概報ではこれらの遺構は15世紀前後と推定されている。小和田遺跡D地区は概報のため、詳細な遺構の様子が不明であったが、今回の整理作業にあわせ、これら31件の平面図を整理したところ、床面積が概ね4～6m²の小型（5件）、7～10m²の中型（17件）、11～14m²の大型（9件）に分類でき、それぞれで主な属性に以下のような特徴をもつことが判明した（表9）。

表9 小和田遺跡D地区堅穴建物主要属性表

	貼り床	柱穴	テラス	プランの張り出し	炭化物集積
小型	有0・無5	有4・無1	有0・無5	有0・無5	有1・無4
中型	有9・無8	有16・無1	有3・無14	有1・無16	有15・無2
大型	有6・無3	有9・無0	有2・無7	有2・無7	有9・無0

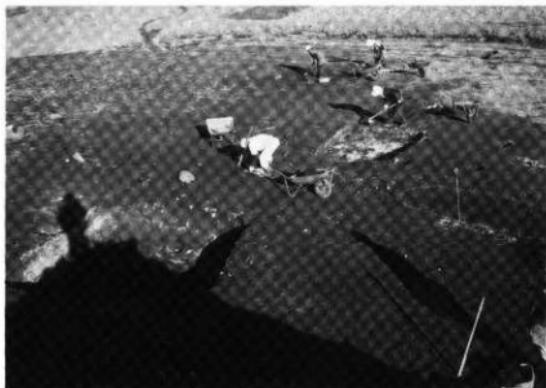
これらの属性の「無」には保存状況等により本来あっても確認できなかつたものも含まれる可能性を否定できないが、大まかには大型になるほど属性が多様化する傾向は明らかである。同種の遺構を検討する上で一つの指標となろう。その上で、本遺跡の堅穴建物をみると、3件ともに基本的に9本主柱穴で炭化物の集積が床面にみられるという共通性がある。また床面積は7～9m²である。このことから、小和田遺跡D地区の中型と比較的共通性が高いことがうかがえよう。また、本遺跡も小和田遺跡D地区も明らかに城館遺構の外部に位置している可能性が高く、その意味で長野県佐久市の大井城跡⁵⁾、金井城⁶⁾で注目された城館内の堅穴建物群との比較を重ねることも必要であろう。大井城や金井城の堅穴建物群は、小和田遺跡D地区や本遺跡のものと比較すると小型のものが圧倒的に多いようである。これらの諸点については、現在小和田遺跡群の整理作業が進行中であり、改めて検討してみたい。

参考文献

- ① 調査担当の平野修氏（山梨文化財研究所）のご教示による。
- ② 山梨県教育委員会1975『山梨県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書—北巨摩郡長坂・明野・並崎地内—』
- ③ 長坂町教育委員会1985『小和田遺跡発掘調査報告書』
- ④ 長坂町教育委員会1986『小和田遺跡I（中世編）』
- ⑤ 山梨県教育委員会1988『金生遺跡I（中世編）』
- ⑥ 佐久市教育委員会1986『大井城跡』
- ⑦ 佐久市教育委員会1991『金井城跡』



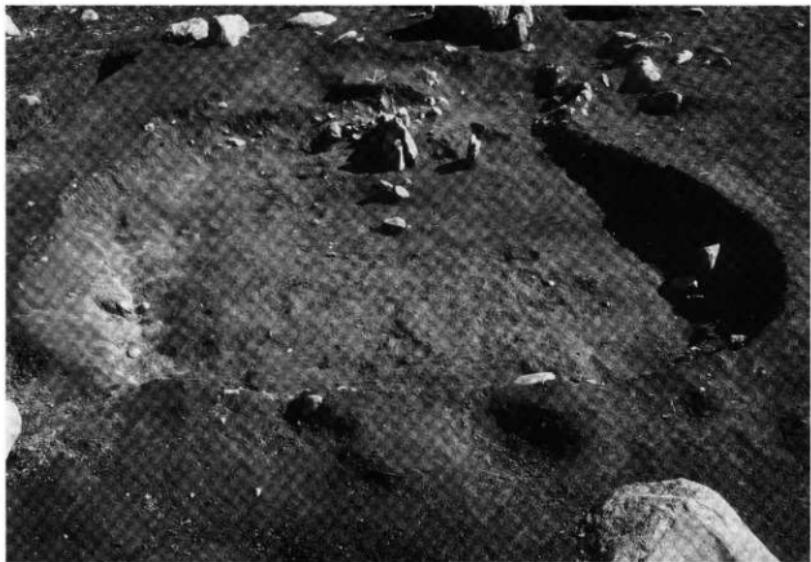
石原田北遺跡全景



調査風景



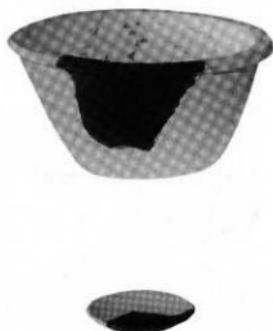
1号住居址



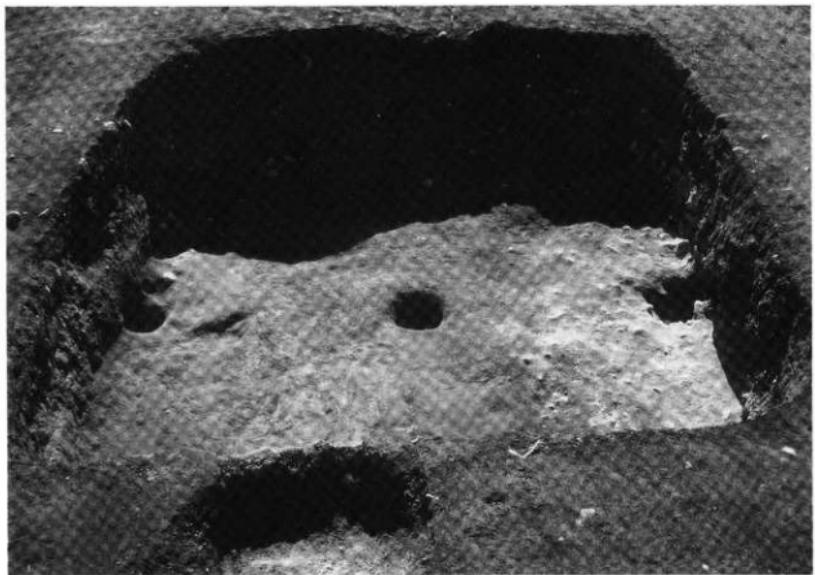
1号住居址



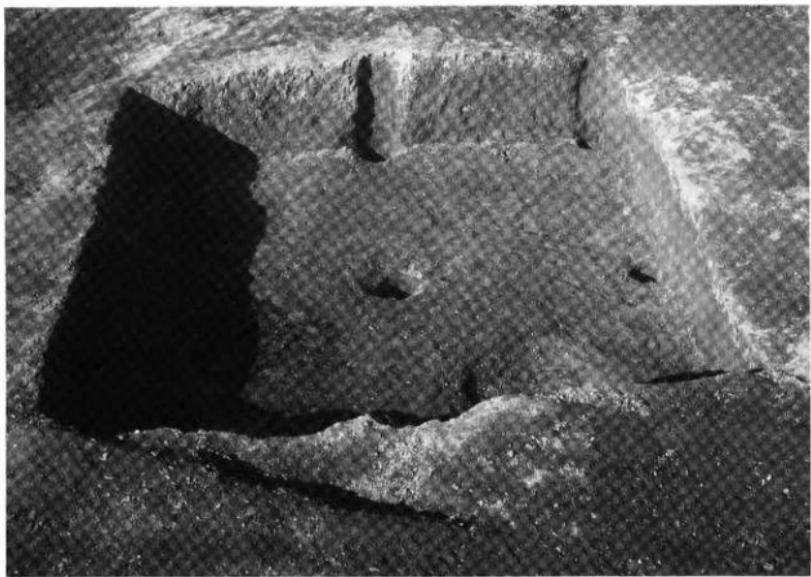
1号住居カマド



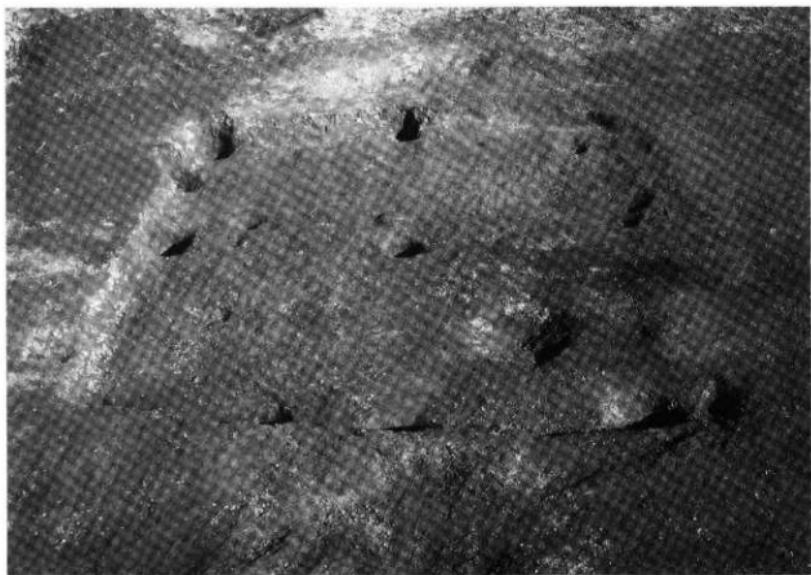
1号住居出土土器



2号竖穴建物址



3号竖穴建物址



4号竖穴建物址



5号竖穴建物址

報告書概要

書名	石原田北遺跡
シリーズ	長坂町埋蔵文化財免掘調査報告書 第17集
著者名	小宮山 隆
編集・発行機関	石原田北遺跡調査団 長坂町教育委員会
住所・電話	山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575-19 0551-32-2111
印刷所	岐北印刷株式会社
発行日	1999年3月31日
遺跡所在地	山梨県北巨摩郡長坂町大八田字石原田
25,000分の1地図名	若神子
位置	北緯35度49分45秒 東経138度23分40秒
標高	705m
概要	主な時代 平安時代・中世
	主な遺構 平安時代住居1件・中世堅穴建物址3件
	主な遺物 繩文時代～中世土器・石器
調査期間	1996年10月～1998年10月

長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書 第17集

石原田北遺跡

1999年3月25日 印刷

1999年3月31日 発行

編集・発行 石原田北遺跡調査団（長坂町教育委員会内）

山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575-19

TEL 0551-32-2111

印 刷 峠北印刷株式会社

山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2313

TEL 0551-32-3245

